

第7回 多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会（現地視察会）
要点録

日時： 平成30年7月24日（火） 14時～17時

場所： 永山駅集合→市内→市役所東庁舎1階会議室

出席者：【委員】（敬称略）

池邊 このみ 大石 武朗 大橋 久仁恵 清水 義功 曾我 昌史
仙仁 径 中尾 浩 野村 徹郎 沼田 真也

【事務局】

道路交通課長 内田
道路交通課整備保全担当主査 山本
道路交通課整備保全担当 芦澤・高橋

次第

- 1 開会
- 2 現地視察
- 3 閉会

1 開会

- ・内田道路交通課長より開会の挨拶

2 現地視察

以下の各路線において、事務局が概要を説明した後、意見交換を行った。
委員から出た意見の概要は以下のとおりである。

■市道4-49号線（永山けやき坂）

- ・根上がりなどが顕著で、歩行空間の安全確保の観点からも、小型化が必要
- ・伐採後に切株残すと住民感情を悪くすることがあるので注意した方がよい
- ・民地の樹木の活用、又は越境しても樹形を保持する調整などがあり得る

■市道5-1号幹線（ハクウンボク）

- ・環境に適していないハクウンボクは伐採し、当初の計画の趣旨を踏まえた、自然風の樹種に変更するとよいのではないか。間隔は要検討。
- ・低木のニシキギは除去し歩道を拡張する。植樹空間の拡大もあり得る。
- ・低木を撤去した後、安全確保のため、ガードパイプを設置する

■市道5-2号幹線（モミジバフウ）

- ・紅葉の名所となっており、多摩市として注力すべき路線の一つである。
- ・照明の障害となっている枝の剪定、枯れ枝の切除、根上りした歩道の補修等を地道に続けざるを得ないと思う。

■市道5-39号歩線（シラカシ）

- ・現状では、街路樹空間が上手に利用されていない印象を受ける。
- ・冬の陽光を取り入れるために両側のシラカシをすべて伐採し、中央に落葉広葉樹を植えたらよい
- ・植栽のデザインや樹種剪定では、隣接する学校や地域の人々の意見を取り入れて進めることが重要

■市道6-1号幹線（メタセコイア）

- ・紅葉の時期はとても美しいが、実際に歩いてみると枯れ枝や根上がりが目立った。
- ・観光資源としていくには、隣接する緑や植栽間隔の調整、高さのコントロール、根上がり対応と大径木化との兼ね合い、落ち葉対応等が必要。

■市道 5-74 号線 (クスノキ)

- ・印象的な通りにしていくには異なる樹種への植替えもよい
- ・多摩センター界隈はクスノキを基調に植えられている。クスノキは雪や強風で枝が折れる欠点はあるが、交通量が多い地域なので丈夫なクスノキは適していると思う
- ・枝が折れないように頻繁に剪定し、コンパクトな状態で維持管理していかざるを得ないのではないか

■乞田川沿い (サクラ)

- ・大径木化が進んでおり、樹木の更新が必要
- ・更新に関しては、比較的長期間かけて順番に行うことで、急激な景観変化を回避するのがよい
- ・樹種に関しては、やはりサクラが良い。多品種化というのも手法の一つではないか。
- ・更新とあわせて植栽基盤整備を行ってほしい

3 閉会

- ・池邊委員長より、振り返りの挨拶
- ・内田道路交通課長より、閉会の挨拶